



# 東京歯科大学広報



教職員に向けて年頭の挨拶をする井出吉信学長：平成27年1月5日（月）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

## 「乙未」（きのとひつじ）

平成27年1月

2014年12月・  
2015年1月

**270号**

### 本号の主な内容

・平成27年 井出吉信学長 年頭の挨拶	2
・平成26年仕事納め	7
・平成27年仕事始め	7
・研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会	8
・2014年の回想&2015年の抱負	19

## ■平成27年 井出吉信学長 年頭の挨拶

## 年頭にあって

皆様、明けましておめでとうございます。短いお正月休みでございましたが、ご家庭でゆっくり過ごされたことと思います。

東京歯科大学は、水道橋に移転して、約1年半が経ちましたが、これからが本番の移転だと思っております。本年は、当初の計画に沿って西棟の建設に取りかかります。水道橋病院は、他医院から多くの患者様をご紹介しておりますので、明らかに手狭です。西棟の建設には、手術室の新設、病棟、歯科麻酔科、歯科放射線科、また障害者歯科、小児歯科、矯正歯科の拡張が含まれています。またそれに伴い本館の改修工事も始まります。皆様には、非常にご迷惑をお掛けするところがありますが、学生のため、患者様のため、ということが一つの大きな目的でございますので、ご協力をお願いいたします。

今後の千葉病院ですが、規模としては今の千葉病院の3分の1位の規模を目途に計画を検討しております。また、現在千葉病院で80人ぐらい研修医を受入れています。今後水道橋病院のみではとてもその人数の研修は行えません。研修医の病院実習にも千葉病院を活用したいと考えております。その為にも、ある程度のユニット数の確保と研修医の教室も整備する必要がありますが、当然収支の事も念頭に入れなければならないと思っております。市川総合病院は、他の大学に存在しない教育、診療上で大きな特色を持っております。今後一層の発展が望まれますが、法人において最も予算規模の大きな施設ですのでより一層の運営努力と注意を払って戴きたいと思っております。

昨年、複数の歯科大学で講義や講演をいたしました。大概の私立歯科大学にはオーナーがおります。そうでないところは多くは総合大学でございますが、本学は歯科の単科大学で、なおかつオーナーがいるわけではございませんので、皆様一人ひとりが自分自身の大学であり、職場であるとの気持ちで是非頑張っておきたいと思っております。

私も時々、皆様の職場、あるいは教室、授業等も見えて廻っておりますが、全ての正確な情報が私のところに伝わるわけではございません。各職場、講座ごとに各教職員の一人ひとりが上司になるべく細かい情報を伝えて頂ければと思っております。一人ひとりの意思、努力、働きによって、大学が成り立っているのです。

皆様の御努力によって東京歯科大学を教育、研究、診療において今後も歯科界のリーダーたる大学にすべく教職員一同、より一層のご努力をお願いして年頭のご挨拶といたします。

今年も一年、どうぞ宜しくお願いいたします。

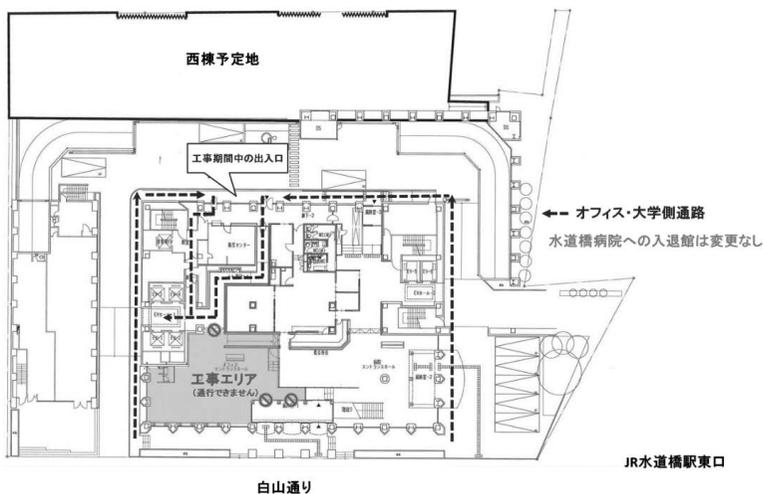


# 水道橋キャンパスニュース

## ■水道橋校舎本館1階エントランス天井工事について

水道橋校舎本館西棟増築工事に伴う本館1階エントランス天井工事が始まっております。このため、平成27年10月31日(土)【予定】まで、白山通り側からの入退館ができません。つきましては、下図の通り本館裏手車路側からの入退館をお願いいたします。

この工事は、東日本大震災を契機として一定の広さを持つホール等の天井の耐震基準が厳格化されたため、1階エントランスホールの天井を、より耐震性能の高いものへと更新する工事です。ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力の程お願いいたします。



水道橋校舎本館1階エントランス工事の概要

## ■水道橋校舎本館西棟建設工事進捗状況



基礎工事の様子：平成26年12月1日(月)



基礎工事の様子：平成26年12月25日(木)

## ■准教授就任のご挨拶



市川総合病院  
内科学講座  
瀬田 範行

平成26年12月1日付で東京歯科大学市川総合病院内科准教授を拝命致しました。水野嘉夫理事長、井出吉信学長、西田次郎市川総合病院院長をはじめ、選考委員の諸先生方、また多大なるご指導を賜りました竹内 勤慶應義塾大学病院長に深く感謝を申し上げます。

私は、平成5年に順天堂大学医学部を卒業し、順天堂医院での内科研修修了後、当時橋本博史教授が率いる順天堂大学膠原病内科に入局しました。順天堂大学膠原病内科は膠原病内科として独立した国内最古の講座であり、これまでの豊富な臨床・研究の業績が蓄積されており、多くのことを学ぶ機会を頂きました。平成9年に米国UCLAリウマチ科に留学した3年半を含めて12年間順天堂大学でお世話になり、ご縁があって平成17年

に慶應義塾大学医学部総合医科学研究センターへ異動し関節リウマチの基礎研究に没頭しました。

平成20年に慶應義塾大学リウマチ内科の助教となり、医局長の大役を任されました。慶應義塾大学リウマチ内科は、以前は血液・感染・リウマチ内科の中でリウマチ研究室として活動しており、全国に多くのリウマチ・膠原病学の指導者を輩出している伝統のある研究室です。平成21年8月に竹内先生が教授に就任された際にリウマチ内科学講座として完全に独立しました。私にとって竹内教授との出会いは人生を大きく変える出来事となり、診療・研究はもとより医療人に必要な様々な事柄をご指導いただきました。この様に、日本のリウマチ・膠原病学を牽引してきた順天堂と慶應の2つの施設で勉強ができたことは極めて幸運であったと思っております。その後、講師を経て平成26年10月1日付で東京歯科大学市川総合病院内科学講座に講師として赴任し、このたび准教授を拝命致しました。これまで培った経験を思う存分発揮し、千葉県東葛地区の医療の充実と東京歯科大学の発展に貢献していきたいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 学内ニュース

### ■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが平成26年12月13日(土)午後2時より、水道橋校舎本館第1講義室において開催された。

受験生や保護者の方々に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況、平成27年度入学試験の概要等についての説明を行い、また、入試科目のポイント説明ということで、数学と英語の一般入試問題の解説を行った。

毎回内容が異なる模擬授業では、歯科麻酔学講座 一戸達也教授による『麻酔は歯科から始まった！目が「てん」になる全身麻酔の話』と題した授業が行われた。授業内容は受験生にもわかりやすい内容で構成されており、参加者の方々は大変熱心に聞き入っていた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別相談とさいかち坂校舎・水道橋校舎新館・水道橋病院の見学が行われ、大盛況な入試ガイダンスとなった。



入試問題の解説を行う際 睦准教授：平成26年12月13日(土)、水道橋校舎本館第1講義室

### ■第139回歯科医学教育セミナー開催

平成26年12月15日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第139回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「わが国における口腔内科の必要性和果たすべき役割」と題し、鶴見大学歯学部口腔内科学講座の里村一人教授より説明がなされた。

はじめに、一般的社会情勢として我が国の人口推移、年齢別人口構成、人口高齢化率の推移、有

病者数の推移について紹介があり、少子高齢化は急速に進行しており、65歳以上の人口比率は世界のトップで人口減少社会に向けて加速していると説明があった。

そういった環境下でこれからの歯科医師は、①全身疾患に関する知識②新しい専門的治療に関する知識③口腔疾患の正確な診断能力④新たな診断法・治療法確立のための研究遂行能力を備えていることが必要であり、歯学、医学、基礎科学に関する包括的知識をもって、頭頸部に現れるさまざまな疾患・病態に対応する専門科である口腔内科の分野に通じていることが求められてくと説明があった。

つぎに、鶴見大学での口腔内科の教育について、3・4年次で担当している授業内容の紹介があり、そして、診療参加型臨床実習において使用している全身疾患患者診療プロトコールについては、従来の歯科治療での対応だけでなく、高齢者や高血圧症、糖尿病等の様々な疾患の既往がある患者の歯科的対応が含まれており、これら全てを修了した時に、口腔内に発生した医学的問題点について、内科診断学的な思考回路で全身の問題点、社会的問題点まで加味した大局的な観点で解決する能力を涵養できるようにカリキュラムが組まれていると説明があった。

つづいて、口腔内科の診療については、まず、訪問歯科診療が挙げられ、主に①一般的歯科治療②口腔ケア③摂食・嚥下リハビリテーション等が行われるが、局所麻酔下処置時での全身的偶発症をはじめとした、リスク対応が必要となる処置は困難であり、訪問歯科診療では、理想とする歯科治療を断念せざるを得ない状況であり、十分な歯科診療が受診出来ない高齢者や全身疾患を有するの方々には、入院型歯科診療が必要になると報告があり、かかりつけ医やかかりつけ歯科医と連携を図り、厳密な医科・歯科病診連携医療体制の確立を目指していかなければならないと説明があった。

最後に、このような背景を踏まえ、口腔内科は非常に広範にわたるため、口腔内に発生する多様な疾患の診断・鑑別を行う能力と経験が要求され、関連医科・検査施設との密接な連携の上での

診療システムが必要になってくることから、今後の課題として、①全身疾患や救命処置に精通した口腔医による在宅歯科診療の充実と推進②医学的リスクを有する要介護高齢者を対象とした入院下歯科診療の実施③口腔疾患に対する低侵襲診断・治療法の開発・確立④全身疾患、臨床検査や全身的治療に精通した口腔医の教育と養成等について推進していかなければならないと説明があった。

当日はテレビ会議システムで市川総合病院、千葉校舎にも中継された。多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される里村教授：平成26年12月15日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

### ■千葉病院ロビーコンサート開催

平成26年12月18日（木）午後6時より、千葉病院待合ロビーにおいて、第6回ロビーコンサートが開催された。

今回は、第1回千葉病院ロビーコンサートでも素晴らしいピアノ演奏を披露していただいた、ウィリアムス美由紀さんをお迎えし、「クリスマスコンサート」と題して「トロイメライ」、「ホワイトクリスマス」等の楽曲が演奏された。



ロビーコンサートの様子：平成26年12月18日（木）、千葉病院待合ロビー

集まった方々は温もりのある音色に耳を傾け、盛大かつ和やかにコンサートは終了した。

### ■平成26年度全体係長会開催

平成26年12月19日（金）午後4時より、水道橋校舎本館ミーティングルームにおいて、平成26年度全体係長会が開催された。全体係長会は水道橋校舎、市川総合病院、千葉校舎の全係長を構成員とする、事務に関する事項についての研究、研鑽を目的とした会であり、研修のための講演と各部署からの報告を内容とし、定期的に行っている。参加者は26名(39名中)であった。

今回の講演は講師に教養科目の佐藤憂子助教をお迎えし、「より良いコミュニケーションのために：それぞれの背景を考える」と題して行った。「その人の感じの良さは訓練次第で向上する」「接遇とは自分がしてもらいたい対応である」「部下のバックグラウンドを知ることが重要」など、より良いコミュニケーションを実行するためのヒントを多く聞くことができた。



講演する佐藤助教：平成26年12月19日（金）、水道橋校舎本館ミーティングルーム

### ■平成26年度第4回水道橋病院教職員研修会開催

平成26年12月25日（木）午後5時30分より、水道橋校舎本館13階において、水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「急変時の対応」と題して、歯科麻酔学講座の半沢 篤大学院生と医療安全管理室の半田俊之講師が講演した。

半沢大学院生は、一次救命処置について講演を行った。その中でも2010年秋に改変となった一次救命処置（basic life support : BLS）のガイドライン（G2010）で強く強調されている効果的な胸骨圧迫の重要性を中心に講演を行った。

半田講師は、水道橋病院での急変時の行動について医療安全管理マニュアルのフローチャートを用いて説明した。そして、AEDを使用する際の注意点についても講演した。

一次救命処置とは、第一発見者が行う処置のことである。病院内においても、一次救命処置は医療従事者だけが行うものではない。よって、医療従事者だけでなく、病院職員も正しい知識を持ち迅速に実行できなくてはならない。このような研修会を定期的に行うことにより、的確な初期の救急処置を行える体制を準備しておく事の重要性を再認識させられた。



救命処置の実演説明：平成26年12月25日（木）、水道橋校舎本館13階

### ■平成26年仕事納め（水道橋校舎、市川総合病院、千葉校舎）

平成26年12月26日（金）、水道橋校舎、市川総合病院、千葉校舎において、平成26年仕事納めの会が開催された。水道橋校舎では、午後6時より、血脇記念ホールにおいて「平成26年仕事納めの会」が開催された。会場には教職員、大学院生、臨床研修歯科医等が多数集まり、狩野龍二大学庶務課長の司会のもと、一戸達也副学長ならびに



挨拶をする一戸副学長：平成26年12月26日（金）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

矢島安朝水道橋病院長より挨拶が述べられた。

市川総合病院では、午後5時30分より、講堂において、平成26年仕事納めの会が開催された。小林友忠市川総合病院庶務課長の司会のもと、水野嘉夫理事長、石井拓男副学長、西田次郎市川総合病院長より一年を締めくくる挨拶が述べられた。

千葉校舎では、午後6時15分より、厚生棟食堂において、平成26年仕事納めの会が開催された。会場には教職員、大学院生、臨床専門専修科生等が多数集まり、浦田知明千葉病院総務課長の司会のもと、井出吉信学長、井上孝千葉病院長より一年を締めくくる挨拶があった。引き続き、柴原孝彦千葉病院副病院長のご発声により、一同乾杯、今年一年の労を互いにねぎらい、会は賑やかに進行した。



挨拶をする矢島水道橋病院長：平成26年12月26日（金）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



挨拶をする井出学長：平成26年12月26日（金）、千葉校舎厚生棟食堂

### ■平成27年仕事始め（水道橋校舎、市川総合病院、千葉校舎）

平成27年1月5日（月）、水道橋校舎、市川総合病院、千葉校舎において、平成27年仕事始めの会が開催された。水道橋校舎では、午前8時45分よ

り、血協記念ホールにおいて教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、狩野龍二大学庶務課長の司会のもと、井出吉信学長による年頭の挨拶が行われた。

市川総合病院では、午後5時より講堂において平成27年仕事始めの会が開催された。小林友忠市川総合病院庶務課長の司会のもと、井出吉信学長、西田次郎市川総合病院院長より、市川総合病院教職員に対して年頭の挨拶が行われ、市川総合病院の一年の幕開けになった。

千葉校舎では、午後6時10分より、歯科臨床研修医室において平成27年仕事始めの会が開催された。教職員、大学院生、臨床専門専修科生等が多数出席し、浦田知明千葉病院総務課長の司会のもと、井上孝千葉病院長、柴原孝彦千葉病院副院長、末石研二千葉病院副院長、高橋俊之千葉病院副院長から年頭の挨拶があった。



会場の様子：平成27年1月5日（月）、水道橋校舎新館血協記念ホール



挨拶する井上千葉病院長：平成27年1月5日（月）、千葉校舎歯科臨床研修医室

## ■「研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会」開催

平成27年1月13日（火）午後6時30分より、水道橋校舎本館第1講義室において、「平成26年度研

究活動に係る不正行為の防止に関する研修会」が開催された。本研修会は、研究に携わる全ての教職員を対象とし、市川総合病院と千葉校舎へはテレビ会議システムで配信し、実施した。

研修会は齋藤 淳口腔科学研究センター副所長の司会で開会され、一戸達也副学長より挨拶があった。研修内容については、1. 石原和幸研究部長と社会歯科学研究室の平田創一郎教授より「研究活動における不正行為への対応に関するガイドラインについて」、2. 村松 敬研究部副部長より、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインについて」、3. 石井拓男副学長より、「ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針について」と題した講義が行われた。

本研修会では、プレテスト・ポストテストを実施し、出席者は理解を深めた。また、当日は3施設を合わせて307名が出席し、有意義な研修会となった。



研修会会場風景：平成27年1月13日（火）、水道橋校舎本館第1講義室

## ■市川市との合同医療救護活動訓練開催

地震などの大規模災害に備え、平成27年1月17日（土）午後2時より、市川総合病院において市川市と合同で医療救護活動訓練が行われた。

当院は千葉県の地域災害拠点病院に指定されており、災害時には多数の負傷者が押し寄せることが予測されることから、市川市と当院の間において、一人でも多くの負傷者を効率よく救うためのシステムが構築されている。

訓練は東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生、震度6強の揺れに襲われて建物の倒壊などで多くの負傷者が出たとの想定で始まった。

市川市では、当院が被災患者で溢れ、災害拠点

病院本来の機能である緊急治療が必要な負傷者への対応が損なわれないよう、震度5強以上の地震が発生した場合、当院正面に仮設救護所を開設し、市川市医師会の医師によりトリアージ（選別）を行い、軽微な負傷者には仮設救護所で応急手当てを施して帰宅を促し、緊急治療が必要な負傷者を迅速に院内搬送することとなっている。一方、当院では仮設救護所から搬送されてくる負傷者を院内に設けた二次トリアージポストにおいて再度トリアージし、治療の優先順位を決め、一人でも多くの負傷者を救うという役割を担っており、訓練は相互の役割分担を確認しながら行われた。

当日は、市川市の職員、医師会・歯科医師会・薬剤師会・千葉県接骨師会市川浦安支部、日赤奉仕団、市川健康福祉センター、当院教職員を含め約200名が参加した。

今回は当院に設置されているヘリポートを初めて使用し、処置困難な重症患者をドクターヘリで他院へ転送する訓練も行う予定であったが、強風のため中止となり非常に残念であった。

全体的には災害医療対応の基本が理解できる訓練であったが、医療資源の枯渇やライフラインの



一次トリアージ風景：平成27年1月17日（土）、市川総合病院前



院内における傷病者処置風景：平成27年1月17日（土）、市川総合病院外来待合いホール

途絶などによる病院機能が低下した場合の対応について、混乱防止の観点から、医療提供の限界を普段から地域住民に周知しておく必要性も認識できた訓練であった。



災害対策本部風景：平成27年1月17日（土）、市川総合病院外来待合いホール

### ■第140回歯科医学教育セミナー開催

平成27年1月26日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第140回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「平成27年度臨床実習について」と題し、臨床教育委員長であるクラウンブリッジ補綴学講座の佐藤 亨教授と各科医局長より説明があった。

はじめに、佐藤臨床教育委員長より、昨年、『移転を踏まえた臨床実習検討会議』で検討し、平成26年度の臨床実習を変更したが、実際に、教育基幹病院が千葉病院から水道橋病院へ、また、水道橋校舎本館西棟完成までの移行を踏まえた中で行われてきた今年の実習内容と合わせて説明が行われた。

平成27年度臨床実習基本区分の平成26年度との大きな違いは、大班を6つから従来の5つに戻し、近年の歯科医師国家試験の出題傾向を鑑み、水道橋と千葉、市川の3病院と5年生が主に使用する水道橋校舎本館13階の教室・セミナー室の機能を最大限に活かして、臨床実習を行うことが出来るように組まれているとのことであった。

つづいて、各科の医局長より、平成27年度臨床実習の学生登院人数および日数、学生ローテーション、基礎担当講座・研究室との連携講義・実習、担当医局員とのポートフォリオディスカッション等について説明があった。

最後に佐藤臨床教育委員長より、今回説明した、臨床実習区分および各科の実習内容は、平成

26年度臨床実習を行っていく中で、何回か中間報告会を導入した。また、年度内に臨床実習実施方法などの微調整を行ってきたなかで改善されてきたものであると紹介があった。

当日はテレビ会議システムで市川総合病院、千葉校舎にも中継され、多くの参加者が集まった。質疑応答も積極的に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する佐藤教授：平成27年1月26日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

### ■慶應義塾大学病院 竹内 勤病院長との意見交換会開催

平成27年1月29日（木）午後6時より、慶應義塾大学病院の竹内 勤病院長を招き、意見交換会が開催された。当日は市川総合病院の部長会メンバーのほか、大学から井出吉信学長、石井拓男副学長、一戸達也副学長に出席いただいた。意見交換会を開催するにあたり井出学長より、東京歯科大学と慶應義塾大学医学部との連携協定に基づき、両病院の情報共有、相互理解を促進していくため、初めて開催される貴重な会であるとの挨拶を頂いた後、「東京歯科大学市川総合病院の現状」と題して、西田次郎市川総合病院長から市川総合病院の実績、医療収入・支出の状況、慶應義塾大学医学部からの医師派遣の現状、臨床研修医の育成と多岐にわたり説明があった。竹内病院長からは「慶應医学の現状と将来」と題した慶應医学、同病院のこれまでの歩み、新病院棟建設事業、早期探索的臨床試験拠点の認定について説明があった。中でも、慶應義塾大学病院が早期探索的臨床試験拠点の認定を受け、市川総合病院もその一翼を担うべき病院になってほしいとのお話もあり、参加した診療科部長からは、今後の慶應義塾大学病院の臨床研究、先進医療に関する方向性と市川総合病院

の果たす役割について活発な意見交換が行われた。今後も両大学の発展のためより一層連携及び協力体制の強化を図っていくことが約束され、閉会となった。



説明される竹内慶應義塾大学病院長：平成27年1月29日（木）、市川総合病院講堂

### ■市川総合病院 病院機能評価に関する講演会開催

平成27年12月の病院機能評価更新受審に向けて、平成27年1月30日（金）午後6時より、東邦大学医学部社会医学講座の長谷川友紀教授を講師に招き、「病院機能評価と医療の質向上について」と題して講演会が行われた。日本医療機能評価機構が設立され、病院機能評価事業が平成9年にスタートしてから、認定病院は平成26年10月現在で2279病院までになり、医療におけるTQM（総合的質経営）を重要視していることがわかった。病院機能評価はこれまで評価基準を満たすことが問われていたように思われるが、新バージョンではケアプロセスと呼ばれる診療プロセスの評価を重要視するよう変更される。また、病院機能評価事業の中で、クオリティマネージャーと呼ばれる医療の質管理の実務責任者の育成を開始したこと



講演される長谷川教授：平成27年1月30日（金）、市川総合病院講堂

の説明があり、最後に、病院機能評価受審を通じて、日々の病院活動が組織的に実践されているかどうか、体系的・包括的に点検することが必要であり、「認定」は最終ゴールではないこと、受審を契機に改善の仕組みを機能させ、「継続的な質改善」に取り組むこと、臨床現場と協同して改善を担う病院職員の育成が重要であるとの説明があった。講演は120名を超える職員の参加の中、盛会のうちに終了した。

### ■千葉病院 千葉西警察署より署長感謝状が贈呈される

平成27年1月30日(金)午前10時より、千葉西警察署において、署長感謝状贈呈式が開催された。

この式は、長年にわたる警察への支援、協力に対し感謝状が贈呈されるものであり、今年度は21の団体および個人が表彰された。その中で千葉病院も表彰を受ける栄誉に浴し、千葉病院事務



相馬千葉病院事務部長(左)と池田千葉西警察署長(右):平成27年1月30日(金)、千葉西警察署

部の相馬克巳事務部長が出席した。

式は感謝状の贈呈から始まり、池田良一千葉西警察署長のご挨拶の後、記念撮影を行い、滞りなく終了した。

### ■千葉病院ロビーレクチャー開催

平成27年1月31日(土)午後2時より、千葉病院待合ロビーにおいて、スポーツ歯学研究室の中島一憲講師による千葉病院ロビーレクチャー「正しい噛み合わせで、カラダいきいき!!」と題した講演が行われた。

「正しく噛む」ということが、全身の機能やスポーツ等の運動能力に関係し、健康の維持にも影響を与えていること、毎日をいきいきと過ごすための正しい噛み合わせや、運動能力向上のために噛むことの効果について分かりやすい説明がなされた。

参加者は熱心に講演に耳を傾け、大変意義のあるイベントとなった。



ロビーレクチャーの様子:平成27年1月31日(土)、千葉病院待合ロビー

## 大学院ニュース

### ■第387回大学院セミナー開催

平成26年12月2日(火)午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第387回大学院セミナーが開催された。今回は、大阪大学大学院歯学研究科口腔病理学教室の豊澤 悟教授をお招きして、「骨基質蛋白質DMP1の基礎研究から臨床応用へ」と題して講演頂いた。

石灰化は、硬組織形成の重要な一過程であり、その石灰化に関与する幾つかの細胞外基質蛋白質が知られている。その中で、ラット切歯からクローニングされたdentin matrix protein 1 (DMP1) が、分子進化学的解析から、硬組織の石灰化に密接に関与する興味深い分子であることが分かってきた。

骨や歯の基質蛋白質であるDMP1は、様々な動物種のアミノ酸配列比較から、等電点 (pI=4) の酸性蛋白質で、リン酸化モチーフ配列を多数有するという特徴が動物種に関わらず保存されている。さらに、他の骨基質蛋白質とは異なり、DMP1発現は骨芽細胞ではなく、骨に埋まった状態の骨細胞に特異的に認められる。これらの特徴から、DMP1は生体内で高度に負に電荷し、Ca<sup>2+</sup>と高い結合能を有して骨の石灰化に関連すると推測される。最近、分泌型リン酸化酵素 (Fam20C) が発見され、*in vitro* 実験ではあるが、実際にDMP1をリン酸化することが報告されている。DMP1はヒトの常染色体劣性低リン血症性骨軟化症 (ARHR) の原因遺伝子として同定されると同時に、DMP1欠失マウスが解析され、石灰化促進能に加えてリン代謝調節機能があることが示された。すなわち、DMP1機能不全では血中fibroblast growth factor (FGF)-23濃度が上昇して低リン血症になり、骨軟化症を呈するようになる。FGF-23は腎臓でのリン排泄を促して低リン血症を惹起するが、DMP1機能不全により血中FGF-23濃度が上昇することから、DMP1は骨細

胞が産生するFGF-23の産生を負に調整していると考えられている。一方、腫瘍性骨軟化症を惹起する腫瘍では、DMP1が過剰発現すると共にFGF-23も過剰発現することが報告されており、DMP1のFGF-23産生抑制作用説とは矛盾することになり、DMP1のFGF-23の制御メカニズムは未だ明らかになっていない。DMP1の臨床応用研究として、I型コラーゲンにDMP1を添加した骨再生材料の研究や、血中DMP1測定用ELISAを作製して、DMP1の新規の骨代謝マーカーとしての意義について有意義な講演内容であった。



講演される豊澤教授：平成26年12月2日(火)、水道橋校舎本館第1講義室

### ■大学院入学試験 (I期) 実施

平成26年12月6日(土)午前9時30分より、水道橋校舎新館第2講義室において、平成27年度大学院入学試験(I期)が実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、社会人特別選抜、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの試験も行われた。本年度は、志願者35名(一般31名、社会人特別選抜2名、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン2名)が受験し、12月12日(金)正午に合格者の発表が行われた。なお、II期は平成27年2月28日(土)に実施される予定である。

## トピックス

### ■共用試験実施評価機構主催 OSCE評価者養成ワークショップ開催

平成26年12月6日(土)、7日(日)に水道橋校舎本館13階、14階において、共用試験歯学系OSCE評価者養成ワークショップが開催された。本ワークショップは公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が主催で、タスクフォースや事務局として22名が出席し、本学も支援協力で22名の教職員がスタッフとして参加した。各大学からの参加者は58名が集まり、総勢102名で実施された。

ワークショップは、参加者が8つのグループに分かれ、6つのセッションで行われ、各セッションの内容は、一般目標である「共用試験歯学系OSCEの医療面接系課題において適正な評価を実施するために、共用試験の意義を理解し、OSCE実施のための環境を整え、内部評価者として必要な能力を身につける」ためのプログラムとなっており、2日目に行われた最後の全体発表・討論では、大変活発な意見交換が行われた。

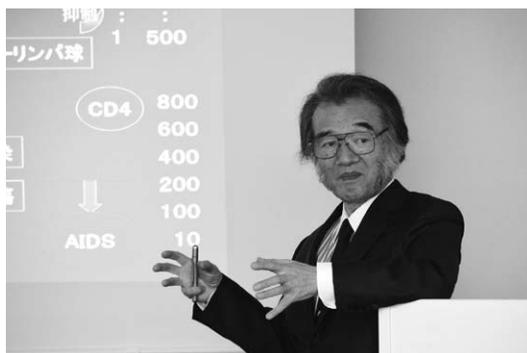
平成17年度から全国共通で正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』であるがOSCEは主に技能・態度面が評価されるものであり、評価者の養成も急務となっている。本ワークショップは共用試験実施評価機構と各大学が協力して今後も実施されていく予定である。

### ■平成26年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成26年11月17日(月)、18日(火)および平成27年1月19日(月)、20日(火)の2回にわたり、水道橋病院において「平成26年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、本学水道橋病院をはじめとする都内の大学病院および都立病院が東京都福祉保健局からの委託を受け、都内の医療従事者向けにエイズに関する実践的な知識・技術の習得を目的に行っているものである。水道橋病院では「基礎コース」を担当しており、16回目にあたる今年度は、11月に6名、1月に6名の合計12名および水道橋病院の臨床研修歯科医が受講した。

研修は講義および実習で構成し、水道橋病院の

歯科医師、看護師、歯科衛生士等のスタッフの協力・連携のもと実施された。池田正一臨床教授の講義は「HIV感染症の現状および口腔所見と歯科医療」と題し、HIV感染・増殖のメカニズム、治療薬および最新の治療法等について詳しく解説いただいた。また、11月18日(火)は根岸昌功先生(ねぎし内科診療所院長)、1月20日(火)は今村顕史先生(東京都立駒込病院感染症科)を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場から貴重な講義をいただいた。また、標準予防策の理念および実践、感染事故を起こした際の対策、医療安全の観点による器具の洗浄・滅菌の実際および感染症患者への歯科治療における注意点などについて、水道橋病院のスタッフが講義を行った。実習は、手洗いおよび含漱の評価、ガウンテクニック、マスクの着脱などを行った。また、SNR(スペシャルニーズルーム)において、感染予防対策の実習および実際の診療の見学を行ったのち、総合歯科および口腔外科診療室にて感染予防対策の実例を見学した。受講者は、スタンダー



講演される池田臨床教授：平成26年11月17日(月)、水道橋校舎本館ミーティングルーム



講演される今村先生：平成27年1月20日(火)、水道橋校舎本館ミーティングルーム

ドプレコーションの重要性がHIV感染症のみならず、未知の感染症に対しても重要であることを再認識した講習会であった。

## ■課題解決型高度医療人材養成プログラムキックオフシンポジウム開催

平成27年1月23日（金）午後1時30分より、東京医科歯科大学歯科棟南4階特別講堂において、課題解決型高度医療人材養成プログラムキックオフシンポジウムが開催された。

はじめに、東京医科歯科大学 吉澤靖之学長のご挨拶で開会し、プログラムの概要説明、基調講演、本事業の目的、概要の紹介が行われた。

つぎに、連携大学のプログラム「特色及び具体的な取組の紹介」では本学から教務副部長であり社会歯科学研究室の平田創一郎教授が参加し、本学の特色である①東京歯科大学ダイアゴナル・カリキュラム②P-Comの構築とコミュニケーション教育への活用③臨床倫理教育との融合～プロフェッショナルリズム教育へ④地域包括ケアシステムの核の一つとして機能する歯科医師養成について説明を行った。

最終プログラムであるパネルディスカッションでは本学副学長の戸達也教授をコーディネーターとして、各大学の取組紹介者がパネリストとして参加し、聴講者を含めて活発な意見交換が行われ、最後に東北大学佐々木啓一歯学部長のご挨拶で午後5時に盛会の内に終了した。

本プログラムは文部科学省により「我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・



パネルディスカッションの風景：平成27年1月23日（金）、東京医科歯科大学歯科棟南4階特別講堂・文京区

コースを構築し、全国に普及させ得るべく、これからの時代に応じた医療人材の養成に取り組む事業」を選定し支援されるものであり、本学は平成26年7月に選定された東京医科歯科大学を申請大学とした、東北大学、新潟大学、日本歯科大学との連携で「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」という事業に参加している。

今後、本学を含めた5大学が連携することで、教育プログラムを発展させていき、将来的に地域包括ケアシステムで活躍できる歯科医療人の養成に努めていく。

## ■口腔外科学講座 恩田健志助教、林 宰央大学院生が第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において優秀ポスター賞を受賞

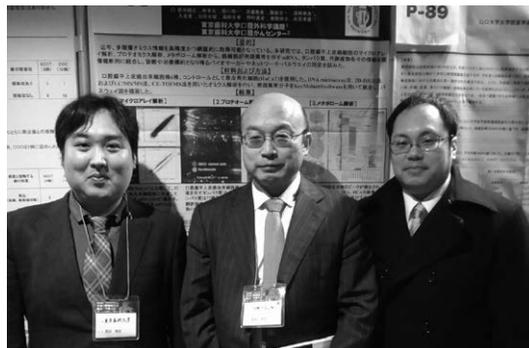
平成27年1月29日（木）、30日（金）に奈良県新公会堂で行われた第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、口腔外科学講座の恩田健志助教と林 宰央大学院生の2名が、優秀ポスター賞を受賞した。

恩田助教は「口腔扁平上皮癌細胞に対するPDE阻害剤の抗腫瘍効果」と題した示説発表を行った。これまでに、口腔扁平上皮癌細胞のオミクス解析を行い、癌細胞が発現異常を示すmRNA、タンパク質、代謝産物（低分子化合物）をそれぞれの分子レベルで解析してきた。今回は各々の情報を階層縦断的に統合し、診断や治療標的となり得るバイオマーカーやネットワーク・パスウェイの同定を試みた。その結果、口腔癌細胞群が大きく変動を示す分子群として、phosphodiesterase (PDE) シグナル伝達に関与する分子が多いことが分かった。中でもPDE5は、口腔癌細胞に共通して、高頻度に発現亢進が認められた。PDE5は各種がんにおいて発現亢進が報告され、PDE5阻害剤が存在し、阻害剤を用いた抗腫瘍効果と抗がん剤増強作用が報告されている。そこでPDE5高発現口腔癌細胞株KONにPDE5阻害剤を投与したところ口腔癌細胞に対しても抗腫瘍効果が認められた。PDE5阻害剤は男性機能障害、肺高血圧症への適応承認済みの薬剤でありドラッグリポジショニング的な性格を有する薬剤で、早期に臨床応用が可能と考えられる。口腔扁平上皮癌の新たな治療戦略の一つとして貢献できる可能性を示唆した。

林大学院生は「抗がん剤誘発口内炎に対する

ラットを用いた治療薬の探索」と題した示説発表を行った。口腔粘膜炎は、癌に対する化学療法や放射線治療の副作用として高頻度に発現する。発症は患者のQOLを著しく低下させ、治療の中断や治療計画の変更を余儀なくされる場合がある。しかしながら、確立された有効な治療方法は無い。そこで有効な新規外用薬を探索するために動物モデルを用いて解析を行った。ラットに抗がん剤5-FUを5日間投与し、6日目に10%酢酸溶液を用いて舌背部粘膜を刺激し、ラット化学療法誘発口腔粘膜炎モデルを作成した。口腔内を①水、②アズレンスルホン酸ナトリウム水和物、③トラネキサム酸、④レバミピド、⑤スクラルファート水和物、⑥ボラプレジング、⑦半夏瀉心湯にて連日洗浄し、効果判定を行った。その結果、半夏瀉心湯が創傷治癒促進作用、抗炎症作用、抗菌作用を

有し、外用薬として最も有効な治療効果を示す可能性を示唆した。多くの参加者の興味を集め、多義にわたる質問が行われた。今後は、得られた知見の早急な臨床応用を目指し研究を継続する。



柴原孝彦口腔外科学講座教授（中央）と受賞した恩田助教（左）、林大学院生（右）：平成27年1月30日（金）、奈良県新公会堂・奈良県

## 長期海外出張者報告

### ■歯科矯正学講座 助教 石井武展

この度、平成24年4月23日より平成26年12月31日までの2年8ヶ月間、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンにあるDepartment of Oral Medicine, Infection and Immunity, Harvard School of Dental Medicine（以下、HSDM）およびDepartment of Immunology and Infectious Diseases, The Forsyth Institute（以下、Forsyth）へ長期海外出張をさせて頂きましたので報告させていただきます。

私の専門分野は歯科矯正学であり、主に臨床に従事しておりますが、将来的な展望から臨床研究だけでなく基礎研究と臨床研究をつなぐトランスレーショナルリサーチについて学ぶために渡米いたしました。初めの1年間はHSDMのBeate Lanske教授のもとでCre/loxPシステムを用いた条件付け遺伝子改変マウスを用いて動物生理学、分子生物学および遺伝子工学的解析手法を駆使した骨代謝分野のホルモン療法や遺伝子治療への可能性について学びました。その後、ForsythのToshihisa Kawai教授のもとで免疫学的手法を主軸とした抗体療法や細胞移入療法を用いた骨免疫学の研究を主に行いました。研究内容については、まだ出版に至らず秘匿義務があるためにこの

場には記載できませんが、近日中に新たな医学および歯学界におけるパラダイムシフトを起こす可能性を確信しています。

私の出張場所であるマサチューセッツ州ボストンという町は、隣接するコネチカット州、メイン州、ニューハンプシャー州、バーモント州、ロードアイランド州を加えてニューイングランド地方と呼ばれ、アメリカ合衆国における最も古い地域で、16世紀にイギリスからピューリタンが入植してきた地域です。その後17世紀にアメリカ独立戦争の舞台となり、現在のアメリカの基礎ができたと言われていています。アメリカの中でもヨーロッパの雰囲気が漂う美しい街並みが残っております。また、世界的に有名な大学が集まる学園都市でもあり、その中でも最難関大学であるハーバード大学はアイビーリーグを形成するその中でも全米最古の大学であり、この卒業生は政界、財界、官界、学界を司る学閥エスタブリッシュメントを形成し、世界に多大な影響力を与える人材を多く輩出しております。さらに、HSDMはロングウッドメディカルエリアという世界有数の病院が立ち並ぶ中にありボストンの中心を流れるチャールズリバーの沿岸に建つマサチューセッツ総合病院（MGH）の名前は今までに一度は聞いた

ことがあるのではないのでしょうか。これらの多くは、ハーバード大学医学部の大学病院としての機能も有しています。ボストンにおける歯学部は、ハーバード大学、タフツ大学ならびにボストン大学などの有名大学にあり、いわば水道橋における本学の立ち位置に近い関係にあります。その中で、ハーバード大学のアフィリエイトである Forsyth は歯科研究所としては世界最大規模で世界各国の研究者だけでなくボストンにある歯学部のレジデントの教育機関としての機能も有しています。そういう意味でも、この経験は今後の本学の進むべき道を知る良いモデルとなりうることを予感し、自身がどのように本学に貢献していくべきかを考える良い機会となりました。

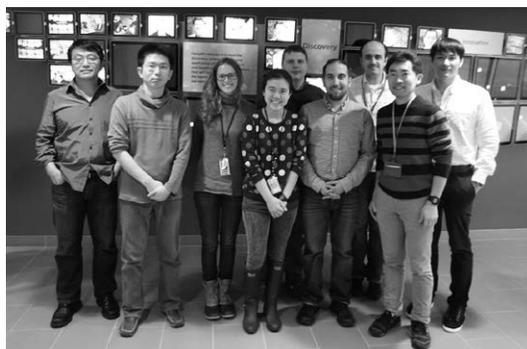
特筆すべきは、ボストンは世界から優秀な人材が集まる場所であり、その競争は熾烈なものではありますが、能力があれば認められ、今後の仕事仲間として、世界で誰も思いつかないような高いレベルの可能性を感じさせてくれる人材の宝庫で



Harvard School of Dental Medicine, Beate Lanske Laboratoryの共同研究者と共に。Beate Lanske教授（左から4人目）、石井助教（右から4人目）。

す。私も、自身の研究だけではなく米国の矯正歯科臨床に触れる機会を得ることができ、さらに学生教育に携わる方々との交流、企業や各官庁からの出張者、MBA取得のために来た方々など、同じ職場にいただけでは通常出会えない、国を超えた素晴らしい恩師や仲間達に出会えたことは、一生の財産になると思われま。この経験を、講座並びに大学の発展のために、さらには歯科矯正学と歯科医学の発展、そして明るい日本の未来のために自身の人生を捧げたいと思います。

最後に、このような貴重な長期海外出張の機会を与えていただき、さらには様々な不測の事態により規定を大幅に超えての出張期間をご検討、ご許可頂きました、井出吉信学長をはじめ、石井拓男副学長、一戸達也副学長、末石研二教授に厚く御礼申し上げます。また、出張中すべての面で支えていただきました歯科矯正学講座の皆様を重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



The Forsyth Institute, Kawai Laboratoryの共同研究者と共に。Kawai教授（左から1人目）、石井助教（右から2人目）。

## 学生会ニュース

### ■平成27年武道始め

平成27年1月7日(水)午後6時30分より、水道橋校舎新館第1実習講義室において、日本古来の伝統行事である「平成27年武道始め」が武道系クラブ顧問・部長、関係教職員を迎えて開催された。

弓道部主将の岡崎寛弥君(3年)の司会により、井出吉信学長、荻原俊美父兄会長、田崎雅和剣道部長が挨拶を述べた後、柔道部、少林寺拳法部、弓道部、剣道部、空手道部の順に演武が披露され今年一年の飛躍を誓った。



武道始めで挨拶を述べる井出学長：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室



武道始めで挨拶を述べる荻原父兄会長：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室



柔道部：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室



少林寺拳法部：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室



弓道部：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室



剣道部：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室



空手道部：平成27年1月7日(水)、水道橋校舎新館第1実習講義室

## 図書館から

### ■本学教員著書について

・眞木吉信 [ほか] 編著 「健康寿命の延伸をめざした口腔機能への気づきと支援」 医歯薬出版、2014

・石上恵一 [ほか] 編 「要説スポーツ歯科医学」 医学情報社、2015

本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

### ■2015年購読雑誌更新について

2015年分外国雑誌の継続購読について、契約を更新した。外国雑誌の値上がりは、円安レート等の影響により、値上がり率が10%にのぼるので、経費削減のため、電子ジャーナルの閲覧可能な医科系の雑誌23タイトルについて冊子体の購読を中止し、電子ジャーナルのみの利用に変更をした。

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■平成27年度第Ⅱ期推薦入学選考・第Ⅰ期一般入学試験

歯科衛生士専門学校の平成27年度第Ⅱ期推薦入学選考が、平成26年12月6日(土)に千葉校舎において実施された。選考内容は、高等学校長の推薦では書類審査と基礎学力検査および面接、社会人特別選抜では自己推薦書および書類による審査と、小論文および面接であった。入学選考は午前9時30分から始まり、午後12時30分にはすべてが終了した。合格の発表については、12月8日(月)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長および受験生本人に通知された。

また平成27年度第Ⅰ期一般入学試験が、平成27年1月24日(土)千葉校舎において実施された。試験内容は学科試験(国語・英語)と面接試験であ

り、午前9時30分から始まり、午後12時にはすべてが終了した。そして1月26日(月)に入試選考委員会が開催され、合否の結果が本人宛に郵送された。

第Ⅱ期推薦入学選考は2年前から実施しているもので、より多くの方が受験出来る機会を設け、より良い学生を確保するために行っている。また一般入試の学科試験は、国語・英語の2科目のみとし受験しやすい環境を整えている。

平成27年度の第Ⅰ・Ⅱ期推薦入学選考および第Ⅰ期一般入学試験には延べ108名の志願者があった。その理由としては、昨今の経済状況と就職難から国家資格取得(本校国試合格率100%)を目指す学生の増加と、高い就職率(本校就職率100%)が影響しているものと考えられる。

## ◆◆◆ 2014年回想&amp; 2015年抱負 ◆◆◆

◆市島文裕(市川総合病院 オーラルメディスン・  
口腔外科学講座 レジデント)

今回2015年の抱負ということなのでなにか名言を引用してそれを抱負にしようと考えました。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」

野村克也さんの名言です。

「可能性の限界を測る唯一の方法は、不可能であるとされることまでやってみることである」

アーサー・C・クラークさんの名言です。

「あきらめたらそこで試合終了ですよ」

安西光義さんの名言です。

やはり名言と言われるだけあって皆一様にグッとくすることを言うなと思いました。またそれまで積み重ねてきたものがその人にあるから言葉も説得力があるのだと思いました。ただこれでは抱負ではなくて名言紹介になってしまうので、自分の2015年の抱負は「将来名言を言ってしっかりくるような人になれるように頑張る」としました。

## ◆市野由香(市川総合病院 看護部 退院調整看護師長)

2014年は振り返ってみると私にとって「スタート」の年であったと思います。

4月より地域連携・医療福祉室へ異動となり、地域支援病院承認に向けて重要な役割を担う部署で、求められる役割が果たせるのか不安の中でのスタートでした。そのような中、まずは円滑な地域連携・地域完結型医療体制の構築を目指し、主体的に前方連携にとりかかりました。具体的には紹介・逆紹介の推進、緊急患者紹介に対する受け入れ態勢の整備、医師会会員の先生方を対象に当院の地域連携に対する満足度調査を行いました。現在少しずつではありますが、成果が現れてきていると感じております。

2015年は後方連携を推進していくため、退院支援看護師を育成し、入院早期より介入することで、病気や障害を抱えながらも自分らしく生きたい、治癒しない病気であっても最後まで希望を持って前向きに生きたいという患者さんの願いを病棟看護師と一緒にかなえて生きたいと思っております。

## ◆今村健太郎(歯周病学講座 大学院生)

2014年は、これまでの取り組みが形になった一年でした。研究においては、大学院4年目として、これまで行ってきた実験データをまとめ、学会発表、論文審査を経て、論文を目標としていた海外の学術誌に掲載することができました。臨床では、研修医の時から担当している患者の症例で、日本歯周病学会に申請し、筆記試験を経て、歯周病認定医を取得致しました。

2015年は大学院を卒業し、長かった学生生活が終わります。社会人一年目として、気持ちを新たに様々なことに挑戦します。

## ◆内田篤志(大学事務局教務課)

昨年は、入職6年目を迎え、私の身の回りに大きな変化がありました。今まで一緒に教務課で働いてきた4名のメンバーが異動になり、また、新たなメンバーが加わり教務課内の人員が刷新されたことです。しかも、今まで同じ業務を担当してきた、入職後、様々なことを教えていただいた直近の先輩がいなくなってしまうというのはかなりの衝撃でした。遅かれ早かれいつかは起こりうることでしたが、実際にこのような状況になると、今まで、いかに先輩に無意識に頼ってしまっていたのかに気付かされた点が多々ありました。

また、今まで担当したことがない業務も引き継ぐことになり、果たして問題なくやっていくことができるのかとても不安でしたが、ふたを開けてみたら、周囲の多大なるご支援があり、現時点ではなんとか大きな問題も無くやってきている状態です。

このような転機の年であったわけですが、6年目にして初めて携わる業務があり新鮮な気持ちで取り組むことができ、また、新しいメンバーに業務を伝達することで、今までこなしてきた業務を見直す機会ともなり、充実した日々を送ることができております。

教務課内でも、所属年数が長い方になってきました。今年はより一層責任を持って業務に取り組んでいきたいと思っております。

**◆笠原 薫** (市川総合病院 病院経営企画室 室長)

お昼休みはウキウキ Watching あっちこっち そっちどっち いいとも♪のフレーズで始まった「笑っていいとも!」が終了してしまいました。そして、その翌日には余韻に浸る間もないほど、前例に無いこれまでとは一線を画す平成26年度診療報酬改定が待ち受けていました。国は本気で社会保障給付の徹底した効率化・重点化をやってきたのです。財政辻褄合わせの色彩を脱色し、医療機関の役割分担を明確にする一方、在宅医療の機能強化とサービスの質の担保を求める内容は、政府が掲げる地域包括ケアシステムの構築に向け、大病院の一般外来を縮小させ、一方では診療所による「主治医機能」を強化させ、在宅医療では、緊急往診や、在宅看取りを重視するものでした。このような改定の荒波にもめげることなく当院は、地域医療支援病院の承認を目指すことになりました。医療法で定義された高いハードルをクリアしなければなりません、教職員一丸となって進めば越えられるものと信じています。もちろん国の政策に乗っかって進めますが、誰のためにやるのかですって?もちろん、みなさんの幸せのためです。一緒にがんばりましょう。

**◆菊地雅己** (歯学部 第4学年)

2014年は大学移転からしばらくたち、段々と水道橋での学校生活に慣れてきました。私自身は実家から通える距離になり、稲毛から実家に戻ることができました。一人暮らしを経験して一番感じたことは母親の存在は偉大だなということです。一人暮らしをして家事をすることの大変さを身に染みて思いました。普段は恥ずかしくてとても言えないですが毎日とても感謝しています。また、昨年は4年生になり多くの実習を体験して歯科医師になる自覚がより出てきました。それと同時に実習を通してご指導してくださる先生方のような歯科医師に自分になれるのだろうか、少し不安も出てきました。今年は5年生になり、病院での臨床実習が始まります。大学病院で色々なことを経験させていただいて将来の歯科医師像を模索しながら勉学に励んでいきたいと思います。

**◆古池崇志** (有床義歯補綴学講座 助教)

いつも通り激務に追われ、夜中までパソコンに向かっているとついつい睡魔に追われてしまった。『もう大学院生じゃないんだ!ここで寝るわけにはいかない。』と己との格闘を繰り返している間とあつという間に終電が行ってしまった。さらば中央線。

やむを得ず、足早に帰宅した大学院生の椅子を並べると、周りの暗闇に溶け込むように意識を失ってしまった。自分としては数分の出来事のはずが水道橋校舎8階の私の周りが突然輝きだした。外を見ると東京医科歯科大学が輝いて見えたのは日の出のせいか気分的なものか私には分からない。

私の今年の抱負は、ブラック企業に負けないうらい働こう! できたいと思います。本年も皆様よろしく願いいたします。

**◆小林紀雄** (水道橋病院 診療放射線技師長)

私には40年近く続いている帆船模型製作という趣味がある。子育てや仕事が忙しかったりして中断した時期も含めてであるが、学生時代より続いているものである。完成したものは7隻程度であり、製作期間は最短で2年、長いものでは途中別の船を始めたために10年近くかかった船もある。そして今年、小品ではあるが作り始めてから10年を超えている、としか記憶のない船が完成する予定である。すべての材料を自作する Full scratch building という制作方法のものである。工作方法を考えたり、技能習得に時間がかかったりしてこんなにかかってしまった。しかし、これが到達点ではない。経験を踏まえて次へさらに工夫を重ねて、より良いものを目指していくのは模型作りも仕事も同じである。

**◆小林史枝** (歯科保存学講座 大学院生)

高鳴る胸を必死に抑えながら、歯科保存学講座の扉を叩いたのが凄く昔のように感じます。

2014年の春、大学院生として講座の一員となりました。そもそも私は勉強が好きではないのですが、研修医中に知識と理解が足りない自分に悔いが残り、未完成な自分が不可逆的な治療することに罪恶感を抱き、大学院へ進学しました。歯内療法は歯の予後に関わる重要な治療であるから

こそ、もっと完璧にできるようになりたいです！！2014年、体重はぐんぐん増えてしまったが、肝心の知識、技術はまだまだ足りていません。2015年は患者さんのために、自分のために、臨床、研究、教育を頑張ろうと思います。

#### ◆清水真哉(ドイツ語研究室 准教授)

魚が好きです。魚屋で買い、自分で捌き、調理して食べます。その魚のことで、2014年は残念なニュースがいくつか聞かれました。6月、ニホンウナギが国際自然保護連合のレッドリストに載り絶滅危惧種となりました。「食べても良いのか」、やましい気持ちなしに鰻屋に行くことが出来なくなりました。11月には太平洋クロマグロもまた、同じ指定を受けました。天然トラフグや助惣鱈、マサバ、鯛、秋刀魚、蛸、アワビなども減っているそうです。一方、大西洋のクロマグロは漁獲規制をした結果、資源が増えました。2015年は、日本でも資源を保護して、魚を安心して食べていけるようにして欲しいと願っています。

#### ◆陣内京花(歯科衛生士専門学校 第2学年)

昨年の10月から臨床実習が始まりました。不安や緊張もありますが、新たに学ぶことがたくさんあり、充実した日々を過ごしています。患者さんと触れ合う機会が増え、今まで学んできた知識や技術、コミュニケーション能力を発揮する場面が多いので、毎日反省点や気付いたことを振り返り、今後の実習に活かしていくことが大切だと思います。また、分からないことはそのままにせず、その日のうちに解決し、予習・復習をして実習に臨んでいくつもりです。

慣れないことが多く大変なこともあります。先生方に質問や相談をし、友達と励ましあい、周りの人と支えあいながら有意義な学校生活を送っていきたいと思います。

#### ◆田所克己(口腔科学研究センター)

似て非なるものの言葉については、昔から多くの人々からの言葉が残る。ある人は、「似て非なるものとは、一見似ているが、本質は異なるもの。いかにも道理に合っているようだが、正しくないもの。まがいものこと。」で「慎重と臆病とは似て非なるもの」とのことである。似て非なるもの、

いろいろあるが、「平等」と「公平」は、ともに耳当たりも良く同じようであるが、時に相反することが多く、沢山の人々を大雑把に簡単に納得させるに「平等」は最適な用語である。「公平」は、事前の調査その後の検証も伴い、本来大変な作業であるが、価値観の多様化し個性的な人が増えた現代においては、特に必要ではないかと思える。必要と便利もなかなか面白い、便利と思えていたことが、時間とともに必要が変わっていくことは、ままあることである。あると便利と思購入したものが、故障し無い状態になったとき、元に戻ったとは考えず、非常に困ったと思える。これは、便利なものが必要に変化したことかもしれない。時代とともに変わっていくことかと思える。その他、可愛いと綺麗、知性と知能等々いろいろ考えると、言葉と実際を考えるといろいろなものが見えてくることもある。皆さんも、一度こんな言葉遊びを考えてみるとなかなか楽しいですよ。

#### ◆長谷川玲奈(法人事務局庶務課)

2014年、いくつかの別れを経験しました。

入職して以来11年半お世話になった教務課との別れ。長年の職場を離れる寂しさと、不安でいっぱいでしたが、今は『職場の“人”に恵まれているな〜。』と感じつつ、毎日を過ごしております。

また、新聞やテレビの中でお見かけした方との別れもありました。その方は、副総婦長を務めておられましたが、阪神・淡路大震災において、自身がボランティアをしていた仮設住宅で孤独死をされた方が出たのを機に病院をお辞めになり、被災者の支援に専念することを決めたそうです。その後世界各地の被災地へ足を運ばれ、東日本大震災においても被災者へ常に寄り添われ、同時に後継者も育てていました。病に倒れ、亡くなる数日前、やせ細った体で知事に提案している姿を拝見し、尊敬という言葉では足りない“無償の愛”に心を強く打たれました。『その人の辛さはその人にしかわからない。だけど、その辛さを分かりたいと思っている私が隣にいる、と伝えることが大事。』その方のことはずっと忘れたい。

#### ◆花田恵子(図書課)

水道橋に勤務するようになり早くも1年以上が

過ぎました。未だに満員電車での通勤には苦勞していますが、水道橋という新天地での勤務にはだいぶ慣れたように思います。水道橋に来てよかったことは教職員の方々や学生との距離が近くなったこと、一人で外食できるようになったことです。それは環境の変化はもちろん、自分の置かれている状況の変化にあると思います。個人的には少し大人になったのだと自負していますが、まだまだ学生と間違われることも少なくありません。2015年は少なくとも年相応に見られるよう外見、態度や仕事面など様々な面で努力していきます。

#### ◆藤原翔子（千葉病院事務部総務課）

来年度予算との戦いで始まった2014年。4月には千葉病院が単独の経理単位となり、科研費も扱うようになりました。年の前半は初めての予算作成作業や科研費の流れに、あたふたしていたのを覚えています。今年は消費税増税も無くなり、予算の流れも掴めてきましたので、もう少し落ち着いて仕事ができるよう努めます。

また、2015年はひつじ年。私も年女となり学生時代と比べて様々な部分で変化を感じ始めていますが、一番大きく変わったのは食欲ではないかと思っています。かつては家族から『残飯処理班』とまで呼ばれた時期もありましたが、その勢いは徐々に減速してきています。しかし、食欲の減退と比例しないのが体重というもの。油断しているとすぐ先に待っているのは「昔は細かった」が口癖の母と祖母の姿です。干支でもある羊に羽を生やすと私の名前（翔子）ですので、2015年は年女のパワーも借りて羽が生えたようにアクティブに活動してみようかと思っています。

皆様、今後ともよろしく願いいたします。

#### ◆牧田恭右（歯学部 第3学年）

私にとって2014年という一年は大きな「変化の年」でした。

学校生活ではこれまでの基礎科目から臨床科目が登場し、実習においては歯科医院で行うような実践的なものへと変化しました。それもあってか今まで以上に歯科医という職業への興味が深まりました。

部活動では私は管弦学部にも所属しており第4学年の部員がいなかったため現役部員の中で最高学年と

して活動面、演奏面において牽引していく立場となりました。また他大学との合同オーケストラでの演奏への参加や、個人的に楽器のレッスンを受けるなど趣味の面でも様々な経験を積むことができました。

そして私ごとですが父が定年退職を迎え、兄が歯科医師国家試験に合格し歯科医となるという家族内での世代交代がありました。

こうした様々な変化を経て、2014年は個人的に「変化の年」となり有意義な1年になったのではないかと思います。

さて2015年、私は現在東京歯科大学の中では第3学年というやっと折り返し地点ですが他の4年制大学の学生達は就職活動に向けて具体的な将来を考える時期です。高校時代の友人と話をして「〇〇企業に就職したい」、「〇〇の研究のために大学院に進みたい」、「海外の企業に就職したい」といった様々な具体的なビジョンを持って同級生達は日々過ごしていることを知りました。

では対して私はどうかというと国家試験に合格して歯医者になりたいという漠然とした将来はあるものの、試験のためのその場しのぎ勉強をこなしているだけというのが現状です。

そこで2015年は私も将来について考える1年にしたいと思っています。まず歯科医という職業について知り、その中で自分がどんなことに興味があるのか考え、現在の漠然とした将来をもう少し具体的なものにすることが目標です。

しかし実際今の私は将来のことを考えるより前に、2月の後期試験、総合試験を合格することが2015年最初の目標になりそうです。

#### ◆森井広一（歯学部 第2学年）

今年に入って急に体重が増え始めました。これはもう大事件です。今まではいくら食べても太らない体質なんだと思っていたのに・・・私の体も一つの節目を迎えてしまったのですね。さて、今年から2年生に進級しまして、勉強することも専門的になり、手を動かしての実習もスタートです。中でも「歯医者さん」を感じたのは歯型彫刻の実習でしょうか。ただ、我々にとって彫刻というのは初めての経験でありまして、犬歯を彫っているはずなのに、なぜかワールドカップのトロフィーみたいになってしまいました（笑）歯医者

さんは大変なのですね。また、昨年から引き続きお世話になっておりますワークスタディでは、一歩進んで誰もが利用しやすい快適な図書館づくりのために微力ながらせっせと掃除をさせていただきました。

来る2015年、私は一つの目標を掲げております。それは、「疲れた、眠い、暑い、しんどい…」といったマイナス言葉を決して口にしないことです。マイナス言葉は自分に利益がないどころか周囲を不快にするので、すぐにでもやめたいと思うのですが、これが結構難しいのです。今度こそはマイナス言葉ゼロで頑張ります！あと、keep fit もです(笑)

#### ◆柳田真純 (大学事務局庶務課)

入職して早いものでもうすぐ4ヶ月が経とうとしています。最初はただ覚えることに一生懸命だった仕事も、最近少し慣れてきたかなと感じています。

2015年は、仕事とプライベートのオンオフをうまく切り替えていきたいです。そのために、時間管理や健康管理、プライベートを充実させたいと思います。仕事とプライベート両方楽しむ為に時間管理をし、メリハリをもって自分をコントロールしたいです。昨年健康のためにジムに入会し、1・2ヶ月は頑張っていました。次第に行く回数が減ってきています。今年は目標を決め、運動した時間や内容を記録に残し、楽しみながら運動しようと思います。そして、体調を崩して周りに迷惑をかけないよう食生活にも気を付けていきたいです。

#### ◆山崎貴希 (組織・発生物学講座 講師)

新年、明けましておめでとうございます。2015年の抱負をとの依頼をうけ、筆をとらせていただきます。昨年を振り返りますと、4月から講師の職につかせていただき、また講座内では実習の責任者として職務にあたらせていただいたという大変充実した1年でした。学生関係の職務として第4学年122期生の副主任も継続して担当させていただきました。学生との対話からいろいろなことを学んだ1年でもありました。

私は毎年、職務に対するもの・個人的なもの2つの抱負をもって新年を迎えております。まず

初めに職務にたいする豊富ですが、「122期生をより一層サポートする」を挙げたいと思います。122期は1年の時から副主任をさせていただき、現在で4年目となっております。入学当初はふわふわしていた彼らも、現在では登院する前の最終学年4年生として日々勉強にとりくんでいる姿を見ると、大変感慨深いものがあります。彼らには通常の定期試験の他、CBT、OSCEと大変重要な試験が控えております。未知の経験のため、彼らにも不安が多いことと思います。そんな彼らを、教員としてだけでなく、同じ過程を通った先輩としてしっかりサポートしていくことが、今年の抱負の1つであります。

次に、個人的なものとしては「英語能力の向上」を挙げたいと思います。私は今まで英語に苦手意識をもっていました。それは大学時代の初めての渡航経験から来ております。英会話もほとんどできないのに1か月ほどをアメリカで過ごし、その間にいろいろトラブル(空港で荷物が出でこず、なんとか聞いたら他の空港にいていた等)もあつたため、苦い思いをたくさんしました。その時の経験が私を英語から遠ざけていたのです。しかし、心の底ではわかっていました。「英語はコミュニケーションツール、やれば楽しい」ということを。また、職務上でも英会話が必要となってくる場所が増えてきたことも、後押しとなっております。現在英会話学校に通っており、少しずつでもいいと自分に言い聞かせてなんとか「英語能力の向上」を図っていきたいと思っています。

以上の2つの抱負をもって2015年が充実した年になるように精励していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

## 人物往来

### ■国内見学者来校

#### 水道橋校舎・水道橋病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生82名、教員2名)  
平成27年1月23日(金)解剖学実習室、標本室見学

#### 市川総合病院

- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 東京労災病院 (泌尿器科部長1名)  
平成26年12月5日(金)市川総合病院見学(LRP(腹腔鏡下前立腺全摘除術)見学のため)

### ■海外出張

- 白石 建教授、海苔 聡助教、青山龍馬助教(市病・整形外科)  
Cervical Spine Research Society 42nd Annual Meeting(第42回米国国際頰椎外科学会)において白石 建教授は招待講演、海苔 聡助教、青山龍馬助教は発表のため、白石 建教授は12月2日(火)から8日(月)まで、海苔 聡助教、青山龍馬助教は12月3日(水)から8日(月)までアメリカ・オーランドへ出張。
- 村戸ドール臨床研修医(市病・研修管理部)  
フダン大学医学部附属病院において招待講演のため、12月5日(金)から7日(日)まで中国・上海へ出張。

- 中川 健教授(市病・泌尿器科)

Asian Institute of Nephrology and Urologyにおいてセミナー講師として参加するため、12月11日(木)から14日(日)までインド・ハイデラバードへ出張。

- 真木吉信教授(社会歯科学)

50th Anniversary of University of Dental Medicine, Yangon, Myanmar式典に参加および歯科疾患実態調査・研究打ち合わせのため、12月26日(金)から31日(水)までミャンマー・ヤンゴンへ出張。

- 片倉 朗教授(市病・オーラルメディスン・口腔外科学)

UCLA School of Dentistryにおいて研究打ち合わせのため、1月11日(日)から14日(水)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。

- 柴原孝彦教授(口腔外科学)、澁川義幸准教授(生理学)

The 1st Interdisciplinary Oral Science International Symposiumにおいて講演および発表をするため、柴原孝彦教授は1月15日(木)から16日(金)まで、澁川義幸准教授は1月15日(木)から17日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

## 大学日誌

### 平成26年12月

- 1(月) 防火・防災安全自主点検日  
臨床研修管理小部会(千病)
- 2(火) 教務部(課)事務連絡会  
第387回大学院セミナー  
感染予防対策チーム委員会(水病)  
診察記録・情報システム管理委員会(市病)
- 3(水) 薬事委員会(水病)  
臨床検査運営委員会(市病)  
リスクマネージャー・ICT会議(千病)  
輸血療法委員会(千病)  
臨床検査部運営委員会(千病)
- 4(木) 感染制御委員会・ICT委員会(市病)  
プログラム委員会(市病)
- 4(木) カルテ指導委員会(千病)
- 6(土) 大学院入学試験(I期)  
共用試験実施評価機構主催OSCE評価者養成ワークショップ[~7日]  
歯科衛生士専門学校 推薦入学選考Ⅱ期
- 8(月) 臨床教育委員会  
歯科衛生士専門学校 推薦入学選考委員会  
千葉病院協議会(千病)  
個人情報保護委員会(千病)  
医療安全管理委員会(千病)  
感染予防対策委員会(ICC)(千病)  
診療記録管理委員会(千病)  
薬事委員会(千病)  
衛生委員会(千病)

- |   |   |
|---|---|
| 8 (月) 業務連絡会(千病)<br>医療連携委員会(千病)<br>千葉病院研修会(千病)   | 18 (木) 部長会(市病)<br>医療ガス安全管理委員会(市病)<br>ロビーコンサート(千病)   |
| 9 (火) 給食委員会(水病)<br>臨床検査室委員会(水病)<br>購買委員会(市病)  | 19 (金) 予算委員会<br>衛生委員会<br>国際交流部運営委員会   |
| 10 (水) 大学院運営委員会<br>大学院研究科委員会<br>歯科衛生士専門学校 3年生卒業試験(1<br>日目)<br>リスクマネジメント部会(水病)<br>救急委員会(市病)  | 20 (土) 機器等安全自主点検日<br>患者サロン(市病)  |
| 11 (木) 栄養管理委員会(市病)<br>午後のリサイクル(市病)<br>手術室運営委員会(市病)  | 22 (月) NSTカンファレンス(市病)<br>24 (水) 後期定期健康診断<br>歯科衛生士専門学校 学生冬期休暇[～<br>1/7]<br>業務連絡会(水病)<br>データ管理者会議(水病)<br>医局長会(水病)<br>診療録管理委員会(水病) |
| 12 (金) 大学院入学試験(Ⅰ期)合格発表<br>歯科衛生士専門学校 3年生卒業試験(2<br>日目)<br>ICLS講習会(市病)<br>木曜会クリスマス会(市病)  | 25 (木) 1～4年生冬期休暇[～1/7]<br>倫理委員会・利益相反委員会、<br>センター試験監督者打合せ・全体会議<br>(16:00)[於:日本歯科大学]<br>教職員研修会(水病)<br>管理診療委員会(市病)                 |
| 13 (土) 入試ガイダンス  | 26 (金) 仕事納めの挨拶(大学・水病・市病・千病)   |
| 15 (月) 第139回歯科医学教育セミナー<br>環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日<br>医療安全管理委員会(市病)   | 27 (土) 仕事納め   |
| 16 (火) 講座主任教授会<br>人事委員会<br>情報システム管理委員会<br>歯科衛生士専門学校 教員会<br>褥瘡対策委員会(水病)<br>褥瘡対策委員会(市病)<br>医療サービスに関する検討会(千病)                          | <b>平成27年1月</b><br>5 (月) 仕事始めの挨拶(大学・水病・市病・千病)<br>防火・防災安全自主点検日<br>臨床研修管理小部会(千病)   |
| 17 (水) 一般入試(Ⅰ期)・センター利用入試(Ⅰ<br>期)願書受付開始[～1/28]<br>センター試験監督者リスニング講習会<br>[於:日本歯科大学]、糖尿病教室(市病)<br>糖尿病教室カンファレンス(市病)<br>衛生委員会(市病)、CPC(市病) | 6 (火) 6年生第4回総合学力試験[～7日]<br>感染予防対策チーム委員会(水病)   |
| 18 (木) 1～4年生前期追・再試験[～24日]<br>診療録指導委員会(水病)<br>医療安全管理委員会(水病)<br>感染予防対策委員会(水病)<br>個人情報保護委員会(水病)<br>病院運営会議(水病)                          | 7 (水) 平成27年度武道始め<br>歯科衛生士専門学校 臨床実習委員会<br>薬事委員会(水病)<br>リスクマネージャー・ICT会議(千病)<br>医療ガス安全管理委員会(千病)                                    |
|   | 8 (木) 1～4年生授業再開<br>予算事務打合せ会<br>歯科衛生士専門学校 授業再開、<br>感染制御委員会・ICT委員会(市病)<br>治験審査・倫理審査委員会(市病)<br>手術室運営委員会(市病)<br>プログラム委員会(市病)        |
|   | 9 (金) 臨床教授連絡会   |

- |  |  |
|--|--|
| 9 (金) 講座主任教授会<br>人事委員会<br>総合講義検討委員会  | 21 (水) 学生部(課)事務連絡会<br>歯科衛生士専門学校 一般入学試験Ⅰ期<br>願書受付締切<br>褥瘡対策委員会(市病)<br>輸血療法委員会(市病)<br>衛生委員会(市病)<br>CPC(市病)   |
| 10 (土) 全館停電 [於：さいかち坂校舎]  | 22 (木) 管理診療委員会(市病)<br>カルテ指導委員会(千病)   |
| 13 (火) 大学院入学試験(Ⅱ期)願書受付開始[～2/20]<br>1～4年生振替授業(月曜日分)<br>研究活動に係る不正行為の防止に関する<br>研修会<br>購買委員会(市病)   | 23 (金) 課題解決型高度医療人材養成プログラ<br>ムキックオフシンポジウム[於：東京医<br>科歯科大学]<br>図書委員会  |
| 14 (水) 基礎教授連絡会<br>大学院運営委員会<br>大学院研究科委員会<br>リスクマネージメント部会(水病)<br>救急委員会(市病)   | 24 (土) 歯科衛生士専門学校 一般入学試験Ⅰ期  |
| 15 (木) 環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日<br>診療録指導委員会(水病)<br>医療安全管理委員会(水病)<br>感染予防対策委員会(水病)<br>個人情報保護委員会(水病)<br>病院運営会議(水病)<br>部長会(市病)  | 26 (月) 第140回歯科医学教育セミナー<br>歯科衛生士専門学校 一般入学試験選考<br>委員会<br>NSTカンファレンス(市病)  |
| 16 (金) 5年生臨床実習プログレス期間説明会<br>センター試験係員全体打合せ [於：日本<br>歯科大学]   | 27 (火) 倫理委員会・利益相反委員会<br>4年生共用試験CBT・OSCE事前説明<br>診療記録・情報システム管理委員会(市病)  |
| 17 (土) 大学入試センター試験[～18日][於：日<br>本歯科大学]<br>患者サロン(市病)<br>医療救護活動合同訓練[主催:市川市](市病)   | 28 (水) 一般入試(Ⅰ期)・センター利用入試(Ⅰ<br>期)願書受付締切<br>教養科目協議会<br>業務連絡会(水病)<br>データ管理者会議(水病)<br>医局長会(水病)<br>診療録管理委員会(水病)<br>糖尿病教室(市病)<br>糖尿病教室カンファレンス(市病)<br>保険診療検討委員会(市病) |
| 19 (月) 臨床教育委員会<br>医療安全管理委員会<br>薬事委員会(市病)<br>千葉病院協議会(千病)<br>個人情報保護委員会(千病)<br>医療安全管理委員会(千病)<br>感染予防対策委員会(ICC)(千病)<br>診療記録管理委員会(千病)<br>衛生委員会(千病)<br>業務連絡会(千病)<br>医療連携委員会(千病)<br>千葉病院研修会(千病) | 29 (木) 1～4年生後期授業終了<br>慶應義塾大学病院長(竹内病院長)との意<br>見交換会(市病)  |
| 20 (火) 共用試験OSCE係員全体説明会<br>機器等安全自主点検日<br>地域連携委員会(市病)  | 30 (金) 衛生委員会<br>国際交流部運営委員会<br>病院機能評価に関する講演会(長谷川友<br>紀教授)(市病)   |
|  | 31 (土) 第108回歯科医師国家試験[～2/1]<br>ロビーレクチャー(千病)   |

## 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 鎌田美樹 椎名 裕 田島大地  
 中村弘明 日塔慶吉 長谷川玲奈 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行  
 前田健一郎 山本祐樹 (平成27年1月現在)



## 編集後記

睦月。仕事始めの朝、血協記念ホールで行なわれた井出学長の年頭挨拶。

水道橋への学生たちと大学機能の移動のあと、これからが大学移転の本番。病院の拡充を主体とした西棟の建設を皮切りに、水道橋本館の改修、市川総合病院の充実、そして千葉病院の新設へといたる長い道のり。東京歯科大学のこれからへの思いが詰まっていました。

ひとりひとりの意思、努力、働きによって成り立っている東京歯科大学。からだ中に張り巡らされた神経と内分泌のネットワークシステムのように、細胞たちが互いにコミュニケーションを取あって、ひとつの意思を持ち、ひとりの人間がかたづけられるのに、どこか似ている。どのパーツが欠けても、今の自分はつくれない。多様性のあるひとつひとつの細胞が互いに協力し合って、今のわたしのいのちとなる。

2014年新しい年に向けての回想と抱負の中に、いくつもの言葉がありました。

いつもいてくれると思い頼っていた先輩が異動していったときの不安。それでも気がつく、まわりの人たちに支えられて何とか頑張ることができている…。知識と理解が足りない自分を変えるために、大学院へと進む、胸が高鳴るほどの決意。辛さを持つ人に寄り添うことを決めることへの共感。新しい場所でも、まわりの“ひと”に恵まれている！と感じられる自分がある。マイナス言葉を口にしない決意。そして、自らを見つめ直し、漠然とした将来をもっと明確なものにすることを宣言する。

だからこそ、あきらめたらそこで試合終了！とのことばが響くのでしょうか。たとえ、終電を逃したあと、並べた椅子のうえで意識をなくしていたとしても、一瞬の眠りのあと、朝陽のなかで輝くのは、向うのビルではないと、いつの日か、自分自身が輝いて見えるようになる未来を夢見て頑張ることのできる若い人たちがいる限り、東京歯科大学の未来はある、と信じます。

一年の計は元旦にあり。古いカレンダーを捨て、真新しくリセットされる日。

自分の時間のなかに内包された加齢のプログラムは、リセットされない確実な時間を刻みます。積み残したものを引きずっては前に進むことができないことを知っているから。

それだからこそ、問う。なにのために？ だれのために？  
 限られた時間の中で自分だけができることがあると信じて。  
 新しい何かを求めて。

未完了なものたちに別れを告げ、前へ！Avanti！  
 新しい一年の初めに。

(広報・公開講座部長:橋本貞充)



鮮やかな、色とりどりに紅葉させた葉を地面に敷き詰め、公園の木々は冬が過ぎ去るのを待っています。かつての若人たちの賑わいが消えた東京歯科大東門のバス停では、塗り重ねられた水色のベンキがはげおちた公園のベンチが、不似合いなま新しい座板を雨に濡らしながら、満開の桜の季節を待っています。